

合言葉『笑顔・元気・チームワーク』は教職員が模範となって ～ かかわり合い、高め合う大野っ子の育成 ～

平成 28 年 8 月

和歌山県海南市立大野小学校
校長 西村 充司

1 はじめに

平成 26 年度末、平成 27・28・29 年度の 3 年間、海南市より体力向上事業の研究委託を受けることが決まった。また併せて、平成 29 年度開催の全国学校体育研究会和歌山大会における公開授業校・分科会場校となることも決定した。

実のところは、全国学力学習状況調査や和歌山県独自に実施する学習到達度調査の結果など児童の実態、また日々の教育実践の感触からも、平成 27 年度については、課題の残る国語力に焦点を当てて研究を進める方向で検討していた。

子どもたちの運動能力には課題があり、ぜひ力を付けていきたいと考えていた分野でもある。教職員で相談し、目標が明確で、教職員が一丸となって研究実践を重ねていけるであろう「体育」を選択するに至った。また、大野小学校の合言葉『笑顔・元気・チームワーク』を教職員が模範的に示していけるとも期待した。

2 研究主題及び研究の視点設定の理由

平成 28 年度、研究主題を「互いに認め合い、運動の楽しさとできる喜びを実感できる体育」～かかわり合い、高め合う大野っ子の育成～とした。

『チームワーク』を合言葉に掲げる大野小学校では、かねてより子ども同士のかかわり合いを重視しており、教科に関わらず低学年ではペア、中高学年では 4 人を基本としたグループによる協同的な学びの時間を、できる限り授業に位置づけるよう取り組んできた。研究の中心教科が体育になっても、子どもたちのかかわりの質を高めていく姿勢は貫くこととなった。

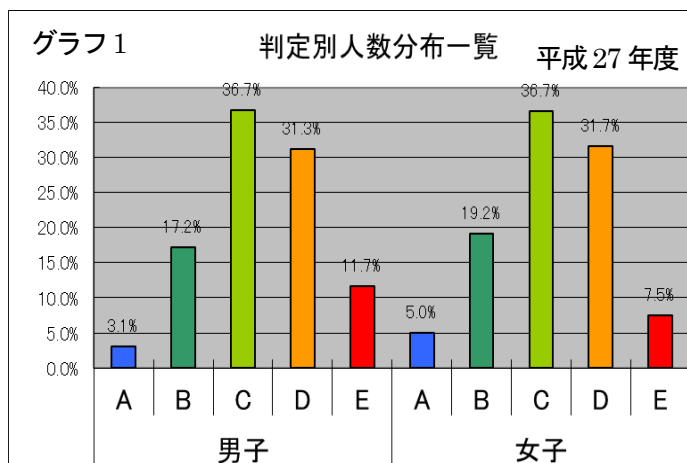
特に体育は、得手不得手が表面化しやすい。だからこそ、仲間の良さを見出し、そこから学び合い高め合うかかわりが大切である。また、「ボールゲーム」を中心に自然とチームで活動する内容も多い。「うまい!」「ナイス」「ドンマイ」など褒めたり励ましたりする情緒的な声かけから、「走れ!」「パス」「シュート!」などの戦術的な声かけまで、『チームワーク』の質を上げるだけでも指導の余地は十分にある。

3 研究の実際

研究 1 年目の 27 年度は、学年部で 1 つは国語の研究授業を行うも、あとは体育とし、講師を含めて全教職員が研究授業を行った。そのうち、全職員で参観し研究協議を行う大研を 3 本、残りは低中高学年部を中心に行う小研を併用することとした。また、研究協議においては、グループ協議を位置づけ、司会や記録・発表は持ち回りで必ず全職員がそれぞれの役割を担うこととした。

性別	男子						女子					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
握力	×	=	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
上体	×	=	×		◎	×	×			×	◎	×
長座	×		×	=	×	×		=		×	×	◎
反復	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
シャトル	=	×	×	○	×	×	×	◎	=	=	×	=
50m	○	×	○	○	×	×	×	=	=	×	×	×
立幅	○	×	=	○	×	×	×	×	=	×		×
ボール	×	×	×	◎	×	×	×	×		×		×
得点	×	×	×	=	×	×	×	×	×	×	×	×

◎国・県とも平均を上回る。○国の平均を上回る。
×国・県とも平均を下回る。



しかし、表 1・グラフ 1 の通り、体力テストの結果から見れば全国平均を大きく下回るほどに、もともと

(1) 平成27年度 研究授業及び体育科を中心とした研究実践の足跡

表2	研究授業と体育科の取り組み	体育関係 教科外の取り組み	体育関係 研究会への参加
1 学 期	学校教育全体構想図の作成 体育科年間指導計画の作成 3年B組 中学年部 国語授業 (5/29 小研) 6年A組 研究授業 (6/1 学校訪問 大研) 「みんなで体力アップ!」(体ほぐし運動と体力を高める運動) 1年A組 研究授業 (6/24 大研) 「たのしくあそぼう」(走・跳の運動遊び) 4年A組 中学年部 国語授業 (6/26 小研)	体育集会開始 大野っ子タイム8:25~8:45 水曜 (全校体育) 金曜 (学年でチャレンジ) 新体力テスト・生活アンケート調査実施と考察 「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」実施 海プロジェクト 「国体選手とヨット体験」(7/3 6年生) 校内水泳記録会 (8/21・24・25 全校児童) 体力向上環境整備 (8/23) 運動場ライン張り直し ケンステップ・竹ぼっくり作り・一輪車・竹馬の充実 遊具の整備	体育実技伝達講習会 (6/11) 1名参加 紀州っ子体力アップコンソーシアム 夏期講習会 (8/19) 3名参加 校内実技研修会「体育理論と実技講習」(8/26) 講師東岡伸佳 教員全員参加 紀州っ子体力アップコンソーシアム 4名参加
	6年B組 研究授業 (9/17 初任者授業研) 「みんなで! よーいラリー!」 (ボール運動:ソフトバレーボール) 1年B組 低学年部 国語授業(10/15 小研) 2年A組 低学年部 体育授業(10/22 小研) 3年A組 研究授業 (10/28 大研) 「つないでアタック」(ネット型ゲーム) 領域別各学年実施計画作成 体育引き継ぎシート作成 2年B組 低学年部 体育授業(10/30 小研) 5年A組 和歌山県音楽教育研究大会 研究授業 (11/13) 1年B組 研究授業 (11/30 市小体連授業研究会)「的に当ててあそぼう」(ゲーム) 5年B組 高学年部 体育授業(12/21 小研)	国体バスケットボール観戦 (9/24 5・6年生) 銃剣道練習見学 (10/2 各学年) 運動会 (10/10) カローリング (サタデー行事 11/7) 大野っ子タイム 10分間走始まり (11/9~) 市駅伝練習始まり (11/30~ 53名参加) 校内マラソン大会 (12/4 全校児童)	和歌山大学附属小学校研究会 (10/31) 3名参加 全国学校体育研究会 広島大会 (11/13) 2名参加 丸ごと子どもの体力向上推進事業「体力・授業力アップモデル校授業研究会」中之島小学校体力アップ研究会 (11/18) 2名参加 野崎西小学校研究会 (12/4) 1名参加
3 学 期	ひまわり学級 国語授業 (1/18 小研) なかよし学級 国語授業 (1/19 小研) 4年A組 中学年部 国語授業 (1/21 小研) 4年A組 中学年部 体育授業 (1/29 小研)	海南市駅伝大会 8チーム出場 (1/11) 保健委員会集会発表 学校保健安全委員会開催 (1/28) 喫煙予防教室 (1/14 6年生) AED講習会 (2/18 5・6年生) 「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」実施 ウォーキング (サタデー行事 2/27)	紀州っ子 体力アップコンソーシアム フォーラム(2・12) 1名参加 大阪教育大附属天王寺小学校研究会 (2/20) 2名参加

(2) 平成27年度を振り返って

体育に関わる研究実践の成果と課題

成果

①全員が研究授業を行い、実践を交流することができた。全国学体研に向け、指導主事の先生方を招いての3つの大研のほか、体育科では、初任研・小体連の授業・小研4つと、多くの実践を残せた。わずかな歩みではあるが、年間指導計画に基づいた内容で、授業の基本スタイルが定着してきている。そして、「かかわり合い」をキーワードに研究を進める中、ペアやグループなど仲間との学び合い、教え合いを重視した実践を積み重ねることができた。

②外部講師を招聘せず、体育主任を講師に自分たちだけで行った校内体育実技研修会。授業作りや領域構成とその内容などの理論について理解を深めることができた。後半は楽しい体育の実践につながる様々な実技講習を受け、有意義な時間となった。共に汗を流しつつ和気藹々の時空間を共有した我々教職員は、『チームワーク』を一層深めた。



③体力テストの結果から、ほとんどの種目で平均を下回り、体力に関して多くの課題が明らかになったが、年間指導計画を見直し教材研究を積み重ねたことで、運動量も増え、技能の向上もみられた。また、授業スタイルの確立、体育カードの活用等により、体育の授業ではしっかりとしたためあてを持って意欲的に取り組む児童が増えてきた。

⑤Q-Uアンケートやいじめアンケートなどを定期的実施し、その都度、学級や児童の実態について全職員で交流することができた。全ての基盤となる人間力の育成については、「かかわり合い」を意識して取り組んできたことで、友達を認めたり、認められて素直に喜んだりできる児童が増えた。

課題

①体育は一步前に進んだが、児童の実態は技能・体力ともまだまだ課題が多い。体を動かすのが苦手な児童もいるし、個人差も大きい。限られた時数の中で技能を高めていくには、6年間を見通し、系統的に

計画を立て、教材研究に努めなくてはならない。また、体力向上のため教科外の取り組みも充実させなくてはならない。

②「かかわり合い、高め合う大野っ子の育成」を研究主題に掲げた1年目、体育科と国語科の2本柱で研究を進め、それぞれに成果は見



られたが、それが相乗効果として高めるまでには至らなかった。数多く小研を行い学年部で研修はできたが、そこで明らかになった成果や課題は全体で共有できなかった。授業研の持ち方に工夫がいる。

③来年度全国学校体育研究会に向け、組織や現教の進め方が変わってくると予想されるが、児童の実態から考えて「伝える力」「コミュニケーション能力」の育成は変わらず必要である。引き続き「言葉の力」を意識した授業作りに取り組まなくてはならない。

さらに、全ての基盤となる人間力についても本年度の取り組みは来年度も必須である。



(3) 平成 28 年度の出発

平成 28 年 11 月 25 日 (金) には、
海南市指定体力向上事業並びに和歌山県指定体力・授業力アップモデル校事業研究発表会を開催!
 平成 29 年 11 月 10 日 (金) には、
全国学校体育研究会和歌山大会の第 3 分科会場として授業公開・研究協議会を実施!

そこで、10月までに全職員が体育(一部保健・特別支援)で研究授業を実施。1~3年生の低学年「体づくり」グループと4~6年生の高学年「ボールゲーム」グループに分かれての小研、全担任が参観・協議会に入る中研、また全職員が入っての大研と、3種類のパターンを併用しながら校内研を進めていくこととした。

また、研究実践の成果を蓄積し、課題に対する取り組みの方向性を明確にしていくためにも、以下の4つの研究の視点とめざす子ども像を置き、共有した。

- 視点① 年間指導計画の工夫:6年間を見通した系統性、基礎基本的技能の明確化
- 視点② 意欲を引き出すかかわり合いの手立て:話し合い活動の持ち方、効果的なグルーピング、言葉がけ
- 視点③ 多様な動きを経験する場の工夫:教具・設営、ルールの工夫
- 視点④ 指導と評価の一体化:課題・内容の明確化、学習カードの活用、効果的な振り返り

めざす子ども像

- ・仲間の良さを認め、主体的に体を動かす子
- ・基礎的・基本的な内容が定着し、技能を高める子
- ・仲間と交流しながら、思考を深め判断力を高める子

このほか、昨年度に引き続き朝の体育集会の充実を図り、水曜日は全校体育、金曜日は学年学級ごとにチャレンジランキングに挑戦している。



さらには、職員手作りの竹ぼっくりに竹馬、雲梯や上り棒などの遊具も活用し、バランスのよい体力の向上をめざした。



(4) 平成 28 年度の授業実践・研究実践

大野小学校の授業づくりにおけるキーワードは、「かかわり合い」である。



例えば6年生「ハンドボール」の実践を例に挙げる。

まずは全体でめあてを確認し、準備運動。そしてめあてに沿ったメインの運動へと移行していくが、そこからはグループ(チーム)内での子ども同士のかかわり合いが中心となっていく。



めあてに沿ってチーム練習を行い、またゲームを経て、グループでの話し合い・かかわり合いをもち、学習シートに書き込んでいく。授業の終わりには、チームとして達成できた点や今後の課題を全体で出し合い締めくくる。



同様に、授業後の研究協議についても、キーワードは教職員の「かかわり合い」である。



実践を終えた授業者の話の後には、4つの視点に沿ったグループ協議。事前にメモしてある付箋



を貼りながら、各自意見を伝え合う。司会、記録、そして全体への発表役は順番に交代し、全員が全ての役を担うようにしている。グループ発表後は、全体での討議を経て、体育主任、そして現教主任のまとめ。最後の最後に助言の先生方にご指導をいただく。



経験や年齢に関係なく、教職員全員が発言し、役割を担い、チーム大野の力を結集して、協議会、ひいては理論や授業力のレベルアップを図っている。

(5) 体力の向上

平成 28 年度 1 学期末が近づく中、今年度の新体力テスト結果がまとまった。

性別	男子						女子					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
握力	=	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
上体	=		○	◎	◎	◎	◎		◎	◎	×	◎
長座	◎	×	×	×	×	○	×	×	×	◎	×	×
反復	×	×	×	×	◎	×	×	×	◎		◎	×
シャトル	×	×	◎	=	◎	◎	×	×	◎	◎	×	◎
50m	◎	○	×	=	○	○	×	=	×	=	=	○
立幅	◎	◎	=	○	○	×	◎	=	◎		×	×
ボール	×	×	×	×		×	×		◎	◎	×	◎
得点	=	×	×	×	○	=	×	×	◎	◎	×	×

◎国・県とも平均を上回る。○国の平均を上回る。
×国・県とも平均を下回る。

グラフ2 判別人数分布一覧 平成28年度

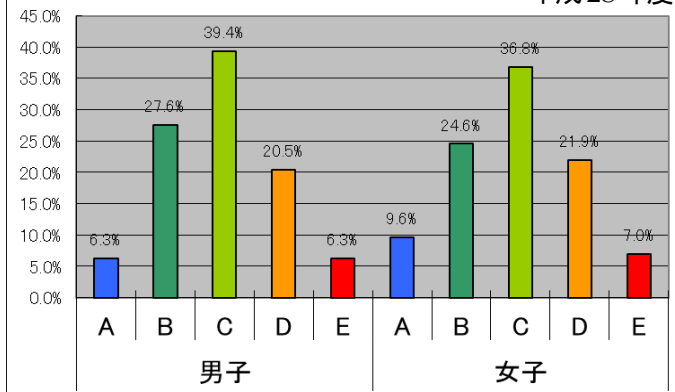


表1 (P,1) と表3を比較すると、子どもたちの体力の順調な向上ぶりが明らかとなる。国・県共の平均を上回る◎についても、昨年度の5つ (男子2 女子3)

から28 (男子11、女子17) に、男女とも5倍以上増やすことができた。特に中学年女子の伸びが大きい。しかし逆に、2・5年生女子は◎が少なく、体力には課題が多いといえる。

判定A～Eの分布についても、昨年度(77%)はBよりD、AよりEが多かったが、今年度(77%)は見事に真逆の分布となった。つまり、どちらかといえば新体力テスト結果の良くない学校から、普通の学校、あるいはどちらかといえば良い学校へと変容してきている。

直接的に体力テストに関わる取り組みをしてきたわけではない。だからこそ、つたないながら職員が一丸となって研究実践を重ね、結果的に体力の向上が図られていることはうれしい限りである。

4 研究の展望

11月の研究発表会に向けて、現在は2人の授業者を中心に、年間指導計画をもとに単元構想を協議し、学習指導案の作成に着手しているところである。

夏休みの職員室も、体育の単元づくり、授業づくり、また体育的な行事や環境整備に関わる会話が自然とよく飛び交う。しかも時に笑いをはさみつつ、結構明るい元気な声で。研究主任は研究概要のプレゼンを作り、体育主任はみんなの相談相手の中心となる。そして、リーダー的な先生が、語尾を上げて発言し、職員室の雰囲気盛り上げる。「同じやるのなら、楽しくやらなくっちゃね。もちろん、子どものためにね〜」。

『チームワーク』とは、単に仲が良かっただけではなく、互いに協力・役割分担しながら、一体となって1つの目標を追求し、全体の成果をあげようとする営みである。これからも、『笑顔・元気・チームワーク』を合言葉に、かわり合い高め合う大野小学校の理想を、我々教職員が模範となって示していきたい。

